花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

令和5年 祝開校150周年 吉浜小学校 ～ふるさとに誇りにもち、ともに学んで未来を拓く吉浜っ子～

高浜市立吉浜小学校
令和７年３月７日　No.９６

３月９日はありがとうを届ける日

３月９日は、「サンキュー」と読めることから「ありがとうを届ける日」とされています。これは、子どもの健全育成や社会人の人材育成を行っているNPO法人・HAPPY＆THANKS(現在は解散しています)が制定した記念日です。

「ありがとう」が飛び交う学校や学級は子どもたちが自己肯定感を高め、居場所を感じる学校・学級です。本校でも教員はもちろん、子どもたち同士もありがとうを伝え合い、一人一人が認められる学校・学級を創りたいと思っています。そのために、まずは教員が子どもたちにありがとうを伝えることを怠らないようにしています。しかし、恥ずかしいことではありますが、私も家庭に戻ると、子どもたちにありがとうを伝えることはあまり多くありません。それをやることはいつの間にか当たり前になってしまっています。この機会に見直さなければと思います。みなさんのご家庭ではいかがでしょうか。

6年生からの贈り物

６年生が卒業制作として、各学級の傘立てにつける看板(上の写真中央)を作ってくれました。ありがとうございました。

おめでとうございます

☆令和6年度高浜市教育研究論文(本校関係分)

□入選　増田彩子 先生
「仲間と話し合うことで考えを広げ、自己を見つめながら考えを深める児童の育成」
～考えを「もつ・言う・聞く」ことを意識した活動を通して(小2道徳)～

□佳作　加藤有貴 先生
「話し合い活動を充実させながら、言葉を手がかりにして読み深めることができる子どもの育成」～小5国語科「大造じいさんとがん」の実践を通して～

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年3月11日 No.97

先輩からのメッセージ

昨年度、吉浜小学校を卒業した先輩方からメッセージが届きました。少しですが紹介します。

□僕は最初は勉強に対して不安をもっていたけど高中の授業は、にぎやかで先生が明るく教えてくれるので安心してください。授業時間も４５分から５０分になるのでたくさん勉強ができます。高中の授業を楽しみに待っていてください。

□中学生になったときは不安なことが多いかもしれないけど少しずつ慣れていけるので大丈夫です。中学校では定期テストというものがあります。定期テストは回数を重ねると難しくなっていくので最初のうちに勉強をする習慣をつけておいた方がいいです。

□私がこの１年間で学んだことは仲間と団結して協力することの大切さです。中学校の行事にはスポーツ大会や合唱コンクールがあります。２つともクラスで協力しないと勝てません。勉強はテスト前にこつこつやることをオススメします。

□６年生の皆さん、小学校ではクラスが３、または４だと思います。しかし、中学校では集まる人数にもよりますが１０クラスになります。最初は不安かもしれませんが、そのクラスで過ごすことによりいろんな人と話せるようになります。もしかしたら自分と話が合う友達ができるかもしれませんね。それでは中学校で待っています。

□中学校生活は不安なことが多いかもしれませんが、友達や勉強、行事が何倍もレベルアップします。その分、悩んだり苦しんだりしますが、だからこそ成長できます。楽しい中学校生活を送れるよう頑張ってください。

□不安に思っている人もいると思うけど、中学校はとても楽しいです。思っていたよりすぐに友達ができるし、部活や行事も全力で行うからです。僕は部活では自分の役割を理解しがんばりました。もちろん課題などは大変だけど将来につながるからいっしょにがんばろうね。

□６年生のみなさん、高中への進学を楽しみにしていますか。私も去年の今ごろは不安でいっぱいでした。でも実際は他校からきた子とたくさん仲良くなれて友達がたくさん増えました。中学校に入学してたくさん大変なこともあると思うけどいっしょに頑張ろうね。高中で待っています。

＊本校の卒業生ではありますが、現在は高浜中学校の生徒であるためメッセージ作成者の氏名は控えさせていただきました。

進学にあたり昨年、感じていたこと、中学校で１年間過ごして思ったこと、それらを踏まえてのアドバイスなどが記されていました。メッセージをくれた高中生は６年生にとっては顔も知っている吉浜小学校の先輩方です。そんな先輩のお話に、不安はなしにはならないと思いますが、それ以上の期待や希望をもって進学できるのではないかと思っています。

□中学１年生を１年間担任して思ったことは、「１年間で成長したなあ」ということです。６年生のみなさんがどんな表情で入学式を迎えるのかとても楽しみです。高中で待っています。(元４の４のみなさん、元気かな？)

そして、たくさんのメッセージカードの中に、以下のメッセージを見つけました。そうです、吉浜小学校から高浜中学校へ転勤された野村尚之先生です。高浜中学校には吉浜小学校から転勤された子どもたちも知っている先生方がたくさんいます。このことも６年生を勇気づけてくれることでしょう。吉浜小学校の先輩方、野村先生、ありがとうございました。ご家庭でも保護者の皆さんの中学校時代のお話、希望や期待が膨らむようなお話を聞かせてあげてくださいね。

東日本大震災から１４年

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災から丸14年となりました。犠牲となられた方々の御霊に深い哀悼の意を表しますとともに、今もふるさとを離れて避難生活を強いられている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

2011年3月11日に何があったのか。覚えていない世代や、吉浜小学校の子どもたちのように生まれていない子どもたちも増えてきました。この日、午後2時46分に三陸沖を震源としてマグニチュード9.0、最大震度7という日本観測史上最大規模の地震が発生。大津波が東日本の沿岸部を襲い、東京電力福島第一原子力発電所事故が起きました。東北を中心に北海道から関東地方にかけた広域かつ甚大な災害となり、「震災関連死」を含めた東日本大震災による死者と行方不明者は、合わせて2万2千人を超え、避難生活を余儀なくされている人は、現在も2万7千人を超えるとされています。

<NHKテレビより>

昨年１月１日には最大震度7の能登半島沖地震が発生し、大きな被害を受けています。自然災害はいつ、どこで起きてもおかしくないのだと改めて意識するとともに、災害を過去のものとせず、未来へ向けて教訓を伝え続けることが重要だと考えます。「我々は備え以上のことはできない」東日本大震災の教訓としてよく言われる言葉です。南海トラフ地震が心配される今日のこの機会に、「ものと心」の準備を見直していきたいです。

花咲く明日を

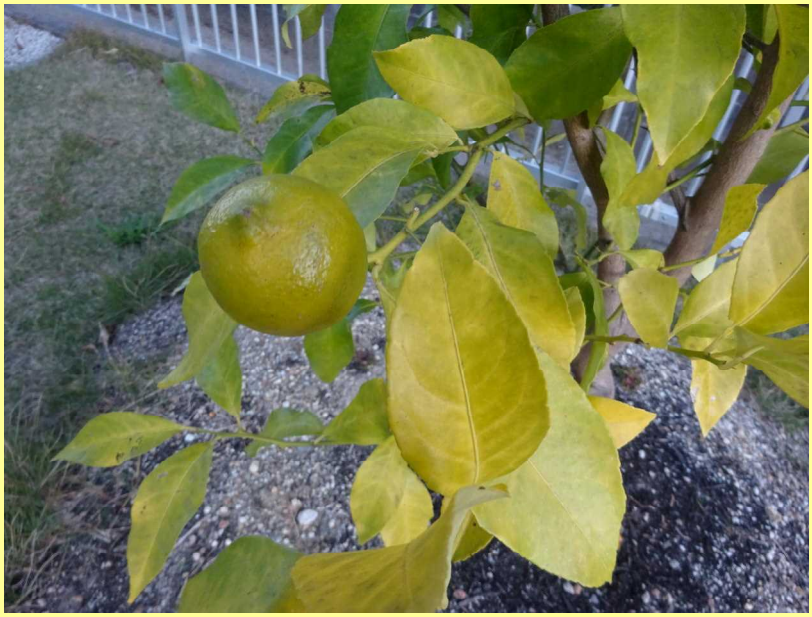
～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年3月14日 No.98

レモンの上はどっち？

右の写真は、「レモン」ですね。では、「レモンの上はどちらか？」と聞かれたら皆さんはどう答えますか。おそらく多くの方が、「葉っぱの付いている方が上」と答えるのではないでしょうか。私もそう答えます。

私の家には、「レモンの木」があり、今年度、たったの一つですが初めて実をつけました。下の写真を載せます。



左の写真ではどこにレモンの実がついているのかわかりにくいですね。拡大した写真を右に載せます。まだ緑色ですが確認できると思います。でも少し様子がおかしいと思いませんか。そこで、さらに向きを変えて撮った写真を載せます。

いかがでしょうか。これを見せられ、上はどちらかと聞かれたら、「葉の付いていない方」と答えるかもしれませんね。私の家のレモンはなぜこのような実の付け方をしたのかはわかりません。詳しい方がおられましたら教えてください。

まとめです。レモンはともかく私たち人間も見方を変えると、捉え方を変えると短所が長所であったりするということです。

「作業が遅い子は丁寧にやっている」とみることができますし、「わがままは自分の軸がある」と見ることもできます。大人の感覚や固定観念によらず、時にはいつもと違った視点や角度で子どもたちをとらえ、伝えていくことが必要ではないかと考えています。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年3月18日 No.99

継承式

お祝いの言葉

桜の蕾が日に日に膨らみ、開花が待ち遠しい今日この頃。皆さんは、明日、六年間の小学校課程を修了し、卒業を迎えます。今日のうちに伝えます。ご卒業　おめでとうございます

さて、今日は、皆さんがよく知っている『鬼滅の刃』から話をします。主人公の竈炭治郎が鬼によって家族を失うという衝撃的な場面から始まりました。このとき、炭治郎は十三才。その後、炭治郎は富岡義勇と出会い、自分の人生の決意をします。それから、二年間の修行を経て、鬼殺隊に入隊しました。私たちが知っている作品の大部分は、炭治郎が十五才です。つまり、今から君たちが過ごす中学時代の三年間は鍛錬の日々だったのです。これは、いったい何を意味しているのでしょうか。

中学校の三年間は、自分の生涯に係る出会いがあり、自分の成長に係る出来事があるということです。小学校時代は保護者や先生、地域の方々に見守られ、自分自身を形作るものを認識する日々だったと思います。ところが、これからの三年間は、自分で選び、自分で行動し、自分を磨く日々になるのです。『鬼滅の刃』の設定から、多くの人々は、この年代をそう捉えていると分かります。

いやいや架空の話でしょ、と思うかも知れません。でも、人々を魅了するのは、やはり、この年代なのです。若さと無謀さ、反発力と吸収力、純粋な心が全てそろうこの年代は、端から見れば限りなく危うい。でも、煉獄杏寿郎のように、あなたの人生において強く影響を与える人との出会いがあるはずです。

皆さんがこれから迎える三年間、竈炭治郎のように、焦らず、慌てず、諦めず、今後のよりよい自分の生き方を考え続けられるよう、心から願っています。

吉浜小学校　教頭　本多みちよ

お別れの言葉

校庭の木々は葉っぱがつき始め、春が暖かい風を運んできました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。春の風を感じながら今、六年生の皆さんとの思い出が頭の中で、よみがえってきます。

「運動会」つな引きとフラッグ

つな引きでは仲間と協力し合いながら、懸命につなを引く姿、とてもかっこよかったです。そして、ケセラセラとベデルギウスのフラッグ演技、音に乗せてダイナミックに旗を振る姿に驚きとあこがれを感じました。皆さんに優しく指導していただいた経験をもとに、今度はわたしたち五年生が伝統を引き継いでいきます。

「ミニコンサート」合奏と合唱

十一月にあったミニコンサートでは、皆さんの迫力のある合奏と合唱を聴かせてもらい、すごく感動しました。コスモスで歌われた「時の流れに生まれたものなら、ひとり残らず幸せになれるはず」という歌詞や、「なるようになるさ」という意味を持つケセラセラという言葉に大変勇気づけられました。皆さんからもらった力をわたしたちの演奏に活かせるよう、仲間と共に一生懸命練習をしていこうと思います。

「初めての委員会活動」

五年生からは委員会活動が始まり、上級生としての自覚を求められました。初めての活動で、上手く委員会で働くことができるか心配でしたが、六年生の皆さんの暖かい言葉で何をすれば良いのかを教えてくれました。意見をよく聞いてくれて、反対せずに優しく接してくれたことがすごくうれしくて記憶に残っています。来年度はわたしたちが下級生を引っ張っていく番です。皆さんから教わったことをつないでいきたいと思います。

「今、卒業生の皆さんに伝えたいこと」

今こうしてふり返ってみると、どれも忘れられない思い出ばかりです。かけがえのない思い出を喜びにかえて、今日こうして皆さんを送り出せることをうれしく思います。

今まで本当にありがとうございました。中学に行ってもがんばってください。卒業生の皆さん、改めてご卒業おめでとうございます。

五年生代表　　田村　至誠

答　辞

5年生のみなさん、私たちの背中を押してくれる温かい歌と言葉をありがとうございます。

そして今日、この継承式で最高学年のバトンを受け渡すことができ、とてもうれしく思います。

私たち6年生は「感謝～前力・善力・全力～」を学年目標に、小学校最後の年を過ごしてきました。5年生で培った力を土台に、自ら進んで行動し、他学年の手本となり、学級・学年全員で力を合わせ、自他を大切に感謝の心をもつ。そんな思いが学年目標に込められています。

私たちは、学年目標の実現を目指して、何事にも全力で取り組んできました。また、行事や委員会、クラブ活動など、多くの人たちと関わる中で、自分たちが支えられていることを実感してきました。そして、当たり前のことに感謝する気持ちをもつことができるようになりました。「感謝～前力・善力・全力～」という目標を大切に思いながら走り続けたこの1年。今の私たちは、その目標が達成できたと感じています。

運動会では、憧れのフラッグ演技ができると胸を踊らせました。実行委員を中心に曲の選定や演技構成など、みんなで一から作り上げました。振り上げる腕の角度やタイミング、隊形移動など大変なこともたくさんありました。しかし、あきらめずに毎日練習し、仲間と教え合って技を磨きました。そして、全員で一致団結した演技を作り上げることができたと思っています。

楽しさを仲間と共有した、ジブリパークの校外学習。京都や奈良の歴史・文化に触れ、友との友情を深めた修学旅行。集団の一員として仲間のことを思った行動、社会の一員として公共のルールを守ることなど大切なことをたくさん学びました。かけがえのない仲間と多くの時間を共にしたことで、最高学年としてより大きく成長できました。

学年全員で心を一つにして奏でたミニコンサート。各楽器、各パートに分かれて何度も練習を重ねました。今まで自分たちを支えてくれた家族への感謝の思いを込めて全力で最高のパフォーマンスをすることができました。

小学校での多くの活動の中で、私たちを支え、見守ってくださった先生方。私たちが日々の学校生活を楽しく送ることができたのは、先生方や地域の方々、在校生そしてここにいる最高の仲間達の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

5年生のみなさん、最高学年のバトンは私たちからみなさんに受け継がれます。頼りになるみなさんがいたからこそ、私たちも成長できました。これからも、吉浜小学校の歴史と伝統を大切にして、自ら行動すること、そして仲間を思い、協力しあうことで、前へ進んでください。新しい未来を切り開いていくことを応援しています。

吉浜小学校で過ごした6年間は、思い出の原点となって、私たちの心に残り続けます。吉浜小学校で学んだことを忘れずに、ここにいる仲間、そして中学校で出会う新しい仲間と共に中学校でも頑張ります。

卒業生代表　加田　夏鈴

本日、短学活の時間を使い、5年生は6年生から教わったフラッグ演技の技を取り入れ、考え練習を重ねてきた演技を、6年生に披露しました。吉浜小学校の伝統が着実に受け継がれていく様子を目にしましたが、その後、行われた継承式でも継承式を行いました。5年生も6年生も互いの気持ちを歌やメッセージに込めて伝えることができたと思います。よい継承式になりました。

明日は卒業式です。きっと思い出に残る卒業式になることでしょう。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年3月19日 No.100

卒業おめでとうございます

卒業おめでとうございます。

小学校六年間を振り返ると、いろいろなことが思い出されることでしょう。不安を抱えながらも期待に胸を膨らませ一年生として学校の門をくぐったあの日から六年、吉浜小学校を巣立つ日が来ました。

今年度は吉浜小学校の最上級生として、下級生の手本となる姿を、たくさん見せてくれました。運動会やミニコンサートでは、お家の方々や私たちに大きな感動を与えてくれました。そして下級生には、自分たちも六年生のようになりたいという、目標を与えてくれました。

また、特別な行事の時だけでなく、集会や外から講師さんを招いてお話を聞く機会がたくさんありましたが、このような会が終わった後、六年生のみなさんは、いつも椅子等の片付け、戸締まりなど、それぞれができることを考え、何を言われなくても進んで実行していました。修学旅行でも、お店や宿の方が行うべき仕事を率先して手伝う姿が見られ、本当に嬉しく感じたことを思い出します。

このようにいつも学年や学校をよくしていこうと思い、自分たちで考え、友達と支え合い、励まし合いながら自ら行動に移していたからこそ下級生の心を動かしたのだと思っています。私が常々口にしてきた「最高学年の姿が学校の雰囲気を創る」とはこのことなのです。6年生の皆さん、本当にありがとうございました。

このようなすばらしい卒業生の皆さんには果てしなく広がる大きな未来が待っています。その未来に向かっていく皆さんに、この先ももってほしいものが三つあります。

一つ目は支え合い励まし合えるよい友達です。思い悩んだ時、励まし力になってくれるのも、また、喜びを分かち合うことができるのも友達です。中学校での新しい出会いも大切にし、よい友達をもつ、そして、自分も相手の立場に立って考え行動するよい友達であってほしいと思います。

二つ目にもっていてほしいものは責任です。中学生になると自分で考え、自ら行動に移す場面が増えます。そこには自分で判断できる楽しさと合わせて責任が生まれます。自分の行いに責任を果たすことは大きな信頼につながります。人に深く信頼される人になってください。

三つ目にもってほしいものは夢です。皆さんには無限の可能性があります。夢に向かって努力のできる人になってください。これから色々な経験を重ね、多くのものに触れ、視野を広げることで自分の夢をしっかりもつことができます。

そして、その**夢**に向かって**よい友達**と**自分の行いへの責任**をもち、こつこつと努力を積み重ねていけば、皆さんらしい道を、皆さんらしく進んでいくことができるでしょう。皆さんの未来へ続く道を応援しています。

保護者の皆様、お子さんのご卒業おめでとうございます。これまで長年にわたって本校にご支援、ご協力いただきましたことに、厚くお礼申し上げます。これから、お子さんが中学校へ進み 、さらに大きく成長していく中で、多くの悩みや不安も出てくると思います。そんな時、やはり一番頼りにされるのがご家族の皆さんです。親子のコミュニケーションを深めながら、お子さんの自立を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

卒業式前日まで、放課になるたびに手をチョークだらけにしながら描いてくれました。
ありがとうございました。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年3月24日 No.101

よくがんばったこの１年

修了式、全校集会を行いました。6年生のいなくなった体育館。6年生はいつも真っ先に入場し、静かに下級生を待っていた姿が思い出されます。本日は6年生に変わって5年生が真っ先に入場し静かに、姿勢よく下級生を待っていました。卒業した6年生から5年生にバトンが受け継がれていることを実感しました。

さて、修了式、全校集会で気になったことがあります。１年生の一番前に座っていた子のことです。その子は右の図の○の場所に座っていました。背筋をピンと伸ばして姿勢よく話しを聞いていましたが、典礼を担当する先生が話す時には、その先生の方へ身体を向けて話しを聞き、舞台上から話がある時はそちらへ身体を向けて話を聞いていたのでした。教室で、「話す人を見て話を聞く」ことを教わっているのでしょうが、式典で今回のような場面は初めて見ました。教室で学んだことを、教室以外でも実行できる、すばらしいなと感じました。式が終わり、その子にはすばらしい行動だったと伝えました。にっこり笑って嬉しそうでした。

<舞台>　□

□<典礼>

○

このように一人一人が大きく成長したこの１年でした。本日の修了式では子どもたちの成長を称えながら、その成長は、「友達」「先生」「家族」の支援があってこそのこと、この後、「ありがとう」を伝えてくださいと締めくくりました。

１年生が育てているチューリップが花を咲かせつつあります。４月の入学式・始業式が楽しみです。

北門の桜のつぼみが膨らんできて、色を付け始めています。開花が近づいています。

桜の花の芽は、前の年の夏には、すでに作られ始めています。秋になって気温が下がると花の芽はいったん成長をやめて休眠します。その休眠から花の芽を目覚めさせるのは冬の寒さです。休眠から目覚めて、春に向かって気温が上昇していくと、再び花の芽は成長し、ある程度、暖かくなったところで花が開きます。桜の開花には冬の寒さと、そのあとの暖かさが必要なのです。

ご家庭でもお子さんの成長を感じる場面は多くあったのではないでしょうか。保護者のみなさんがお子さんの成長を嬉しく思っていることを伝え、褒めてあげてください。４月からの学校生活に期待と希望が膨らむようよろくお願いいたします。

保護者のみなさんには、本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、本当にありがとうございました。